

## 研究発表 1

### セッション1 a 「福祉のまちづくり概念」

座長 藤井直人（神奈川県総合リハビリテーションセンター）

1. すべての人のためのデザインはどうすれば可能なのか？－対象が違えばユニバーサルデザインに向けてのアプローチも違う－

古瀬 敏（静岡文化芸術大学デザイン学部空間造形学科）

今回の報告ではユニバーサル・デザインの適用を具体的に考慮すると対象者と機器／システムによって適用の仕方に違いが出てくる。具体的には市場原理により進展する型と法的規制が必要な型に分類している。この2型の連携方法には当学会の果たさなければならない課題でもあるとフロアからの質問に回答している。

2. 「福祉のまちづくり」概念に関する一考察－多領域の有機的連携を求めて、社会福祉の立場から－

小山聡子（日本女子大学人間社会学部社会福祉学科）

福祉の立場から「福祉のまちづくり」の概念に対して1990年代に出された福祉領域からの論文を分析した結果を発表していた。従来福祉領域からは福祉サービスを必要とする人々を限定的に捉え、その対象者にサービスを提供するといった一方向に偏っていたが、「福祉のまちづくり」では対象者を「まちで生活する人」と広くそして平等に扱える可能性があるとして指摘している。

3. バリアフリーをテーマとした総合学習プログラムの提案

黒川紗樹（大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻博士前期課程）、飯田克弘

小学校における総合学習のテーマとして「バリアフリー」を取り上げたときの教育プ

ログラム、資料とを開発し、実践してその効果について考察した報告であった。当事者の参加が必要ではないかとの質問に対して、小学生を対象としているので導入部での情報提供で十分と回答していた。

4. 観光地管理者のバリアフリー化に対する取り組みと意識

志摩邦雄（茨城大学工学部都市システム工学科）、高澤久美子、金利昭、小柳武和

歴史的建築物や庭園等の管理者にバリアフリー化への意識と実際についてアンケート調査を実施した結果を報告していた。歴史的に遺産を管理する立場からは多くの国民に見てもらうことの重要性からバリアフリーの必要性を理解しているが、それを管理している現場に適応することには拒否的な態度が出てきており、特に宗教家に多く存在していることを指摘していた。

5. 高齢者外出の実態調査とウェルフェアに関する実証分析－インターネットアンケートによる分析－

吉田 浩（東北大学大学院経済学研究科）

福祉のまちづくりの対象者は移動に制限のある高齢者・障害者に限定して公共交通機関等の整備を進めてきている。報告者はインターネットを活用して高齢者の身体機能、外出実態と外出希望等について調査した結果を報告していた。フロアからは、交通の頻度等のサービスの質向上が上位となっているがバリアフリーの必要性について再考して欲しいとの意見が出された。

### セッション1 b 「車いす」

座長 横山 哲（(社)建設コンサルタンツ協会）

6. 段差バリアフリーに関する一考察

今泉 誠（名城大学理工学部建設システム工学科）、江崎公暢、藤田晃弘、高柳泰世